



NPO 法人えんぱわめんと堺/ES
NO.39 2022年4月発行

も く じ

- P2 NPO 法人えんぱわめんと堺 20 周年
- P3 人権 NPO 助成事業 『子どもとおとなのエンパワメント事業』
- P4 エンパワメンター研究会 Vol.10
- P5 SAY の会 事業報告
- P6～7 HR プロジェクト 事業報告
- P8 中区子育てひろば 事業報告
- P9～10 研修報告
『アタッチメントによる子どもの状況と関わり』
福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター助手 水木理恵さん
『子ども・ジェンダー・力関係』Facilitator's LABO 栗本 敦子さん
- P11 さかいSDGs 推進プラットフォーム・CAP 活動報告
- P12 事務局からのお知らせ



イラスト提供：ふわふわ。り

NPO 法人えんばわめんと堺

20 周年を迎えて

代表理事 北野 真由美

今年は、NPO 法人発足 20 年を迎える。

1997 年 子どもの人権を尊重する子どものあらゆる暴力防止プログラム（CAP）を、すべての子どもたちに届けたい気持ちで走り出した。

2002 年 8 月、私たちは NPO 法人（特定非営利活動団体）えんばわめんと堺 /ES と法人格を取得し堺市内のすべての小学校に CAP 子どもワークショップをと動いた。

2012 年 まだまだと思う 10 年目、堺市内だけにとどまらず、大阪府内の教育現場に NPO 法人として人権、多様性、性、のプログラムで、人間関係づくりなどワークショップを実施した。その後、兵庫、和歌山、奈良、京都、滋賀と関西圏から山陰、四国、九州にも教員研修を中心に広がった。そして



2022 年 20 年目

2002 年 NPO 法人格を取得したスタート時は、NPO 法人って何？と私たちはもとより社会でもその認知度は低かった。1 年ごとの総会で、何年か過ぎたころ、私は、もっと活動を広げて、もっとメンバーを増やすことに夢中だった。その時にスタートからともに動いてきた事務局から「活動を広げることも人員を増やすことも大事ですが、もっと経営状態を見てください。この運営で人を雇用できますか？お給料も出ませんよ！」と、貸借対照表を見せられた。「あかん！」「まずは、この法人の存続を考えないと、活動は続けていけない！」

この NPO 法人を存続するために、運営にかかわる委託や助成金情報、経営に意識が高まった。そんな時、堺市市民活動支援事業で、中小企業診断士リー・ヤマネ・清実さんに出会い、繰り返し面接指導が始まった。「あなたたちの団体の強みは何ですか？」「それを広げるために何をしていますか？」これまでやってきた活動を説明し、エンパワメントの関わりによる人の変化、リピーターが多いなど走り続け私たちの団体が堺市、そして大阪府、教育の現場には根付いていることを伝えていた。ある時、日本経済新聞の社説に私たちの活動が掲載されたことをリーさんから確認された。「これは、あなたたちの団体ですよ？えんばわめんと堺って記されてるしね」と。取材を受けたこと、掲載されてることを確認され、私たちは「そうなんです」と受け答えた。リーさんは「そうなんですじゃないですよ。この記事とかコピーしてる？」と叱咤激励を受けた。「今、自分たちがやってきていることをもっと文字や形に残さないと、この記事もその一つでしょ！」と。これまでも何度も言われた言葉だった「もったいない！」がふたたび強調された。

20 年間を振り返り、さらにこの活動を広げ一人ひとりが尊重される社会をめざす。

私たちは、この集大成を一冊のガイドブックにまとめて今、次のステージに行こうとしている。

『子どもとおとなのエンパワメント事業』 報告その3



これまでもお伝えしているようにESは【「民間公益活動を促進するための休眠預金等に関わる資金の活用に関する法律」に基づく人権NPO協働助成事業】の実行団体として選定され、

2021年度より3年間の『子どもとおとなのエンパワメント事業』が始まっています。

「子どもが誰ひとり取り残されることのない、一人ひとりが安心して過ごせる社会作り」を目的とし、子どもの権利意識の向上と擁護、理解、行動変容へと繋げるためともに学びあい、子どもたちとおとなへのエンパワメントの関わりをする人を増やしていきます。

初年度の2021年度は「**エンパワメンターへの道しるべ**」と称したガイドブックを作成しました。これまでワークショップで出会った子どもたちや先生、また子育てひろばでの親子への関わりや見方をエピソードにまとめたもの・活動の中で見えてきた課題やはずせないポイントを盛り込んだプログラム・そしてESの20年間のあゆみを1冊の教材にまとめました。

2年目の2022年度は このガイドブックを使って、掲載のプログラムを実践する〈“子ども支援”エンパワメンター講座〉を実施します。

子どもへの関わりだけでなく、例えば職場の同僚との関係づくりにも活かされる内容も盛り込んでいます。

“エンパワメンター”の誕生をめざしていきます。

一人ひとりが大切にされなければ、学びじゃない。

気づきの学びじゃなければ身につかない。

身につかなければ、成長しない。

築きの力で社会とともに育ちたい。

(ガイドブック「エンパワメンターへの道しるべ」より抜粋)



講座の詳細は随時HPや
Facebookに掲載します。
ご覧ください。

ともに学びませんか？

講座に興味がおありの方は、えんばわめんと堺までお問い合わせください。

(「**エンパワメンターへの道しるべ**」は購入できます。)

ガイドブック作りはESとして初めての取り組みでした。

ERIC国際理解教育センター角田尚子さん、Facilitator's LABO(えふらぼ)栗本敦子さんにご協力を頂き無事に完成することができました。ワークショップが続く忙しさの中での編集は大変でしたが、一つひとつメンバーで話し合いながら、丁寧に作業を進めました。一人でも多くの方に読んでいただきたいと思います。2022、2023年度の『子どもとおとなのエンパワメント事業』にご期待ください。(しおざき)

エンパワメント研究会 Vol. 10 めざせ！エンパワメント

ひきつづき Vol. 10 を開催いたします。

子どももおとなも、さまざまな可能性、力を持っています。本来もっている力をふくらます、エンパワメントの関わりでファシリテートをしていくことを学ぶ研究会です。

前頁の〈“子ども支援”エンパワメント講座〉とあわせて受講して頂くことも大歓迎です！

“エンパワメント”をめざすために、ともに学びましょう！

ファシリテーター

代表理事 北野真由美

申し込み：NPO法人 えんぱわめんと堺/ES E-mail empowerment@lily.ocn.ne.jp

Tel 072-230-5588 Fax 072-230-5589

参加費（一回につき） 一般：3000 円（学生：2000 円）賛助会員：2000 円 正会員：1000 円



2022年度は全て土曜日開催

AM9：30～12：00

会場：堺市内の公共施設

ファシリテーター研究会 Vol.9の2月26日（土）報告

市場恵子さん（社会心理学講師・心理カウンセラー）と大塚愛さん（岡山県議会議員・大工）に講師をお願いして実施することができました。

まん延防止等重点措置の期間であったため、オンラインでの開催でしたが、2年越しの願いが叶いました。

「エンパワメントのエッセンス～歩の原点」というタイトル通り、お二人から心温まるお話を聴き、力を取りもどすことができました。以下、参加者の気づきから抜粋しました。

・市場さんの言葉には重みがある。生きてきた時の重み。大塚さんの言葉には温かさがある。まわりを引き込んでいく。行動力はどこから生まれてくるのだろう。つながりの大切さを改めて感じました。

・同調の研究についてとても興味深くお話をききました。まちがっていても、それが正しいことのように流れていく。一人でも声をあげたら、意見を表明したら、声をあげやすくなるのでその1人になれたら良いと思いました。

・常に自分の気になることに正面から向き合って取り組みブレずに自分らしく生きておられる恵子さんと愛さんに感動しました。沢山のお話の中で「私たち大人が出来ること」の項目全てが普段CAP大人WSで伝えている内容とぴったりで嬉しかったです。

・愛ちゃんの失敗しても大丈夫という思いや、失敗に対する身近な人の肯定的なうけとり方が行動力につながっていることもきき、わたし自身も出会う子どもたちに、その思いを常に伝えていきたいと思いました。

SAY の会

*** 2021年度最後のワークショップの様子をお伝えします ***

「がんばあれ！」「がんばあれ！」 「あっ産まれそう・・・産まれてきてくれて、有難う！」
先日、SAY(性・生)の会の“いのちの誕生、体験ワークショップ”をこどもの里(西成区)で実施した。からだのしくみ、そしてからだの機能を話し、プライベートゾーン、性器の洗い方、また「かっこいい、おしっこの仕方」「大事な性器の拭き方」などを丁寧に説明した。

性器の模型を見せながら、からだの中でも最も強い筋肉で表面が囲まれている子宮は、赤ちゃんが守られ育つ場所だと説明。そして、お腹の中の赤ちゃんが自分で呼吸をし、自分で栄養を取り入れたり、要らないものは出せたりする力がついた頃(妊娠10か月ごろ)に、この子宮の中で、グューウ、グューウって何度も抱きしめられて、お母さんと赤ちゃんの力を合わせて、誕生することを説明した。子どもたちは、「ぎゅゅーう、ぎゅゅーう」の声に合わせて飛び出す絵本を閉じたり開いたりすると、その抱きしめられる感覚に集中していた。中には、お医者さんの力を借りて、お腹を切って産まれてくる子どももいるよ。

いよいよ、小さな簡易テントを広げて子宮に見立て、大きな浮き輪をつなげて産道を作った。子どもたち一人ひとり、誕生の疑似体験をする。まずは、子宮のテントに入る⇒じゃあ、そろそろ産まれそうですよ。準備はいいかな？⇒産道を進むときに、ぐるぐるからだを回しながら出口へ向かう⇒誕生  花吹雪が舞う。出口では、多くの人が花吹雪を降らせて「おめでとう」っと、生まれてきてくれたことを祝った。生まれてきたその子どもに

SAYの会のメンバーがインタビューをする「産まれてきてどんな気持ちですか？」「どんな人になりたいですか？」子どもたちは、「産まれてきて嬉しかった」「大変やった」「良かった」「良い人になりたいです」など嬉しそうに感想を言った。



子ども一人ひとりが、産まれてくる体験をしながら、お友だちの誕生も一緒に祝った。

この日のSAYの会 in こどもの里では、20人が誕生した。

みんな、どの子も大事な命であることを疑似体験してもらうことで、感じてもらえただろうか。そして、関わるおとなからは「生まれてきてくれてありがとう」のメッセージを送った。(あーみん・さめ)

HR (Human Rights) プロジェクト

HR の活動は、子どもの心にどのように届いているだろうか。

昨年度、様々な学校で出前授業をする中で、学校の外から地域のおとなが子どもたちへ関わることの意味をより実感した。

近年、人と人との繋がりが制限される状況下で、子どもたちは学校行事や外出機会が減少し、極めて限定的な人間関係の中で暮らしていることが推測される。そんな中、子どもたちは日々のコミュニケーション、感情表現や気持ちの表出を誰とどのように学び、どこで誰に対して表出できているだろうか。本屋では、おとな向けの「アンガーマネジメント」や「ストレスマネジメント」の表紙が目につく。様々な制限により我慢せざるを得ないと感じているおとなが多い社会で、子どもたちはどのように自己と他者を捉えているだろうか。

HR のワークショップでは、表情カードを使って気持ちの言葉をたくさん出し合ったり、質問に対して、スタンドアップアクティビティをしたり、短い劇を見て自分と相手の境界線を考えた。自分の気持ちと相手の気持ちを考えたり、想像したり、話し合ったり・・・

「いま」の子どもの態度や言葉や気持ちに寄り添い、肯定的に関わるワークショップの中で、子ども自身が自分の気持ちに気づき、力を発揮できるような関わりを目指したい。この子はいつもと違う。この子はいつもと同じ。このような捉え方ができない外部からの子どもへのアプローチだからこそ、「いま」に向き合う。今年度、子どもたちと直接対面で関われるワークショップの機会は貴重な時間だった。ワークショップの依頼を頂いていたが実施の実現が見送られた学校もあった。体験や経験、人との出会いの機会の減少は、子どもたちの発達にも影響する。たとえば、子どもたちの感情の認知や表出にどのような影響があるだろうかと思像すると、ますます HR のワークショップのニーズが高まるようにも感じている。 (さくらんぼ)

* * * * *

今年度もコロナ禍でのワークショップ実施となったが、昨年度同様、ワークショップ実施回数が例年より減少した。この状況下、長年継続している学校で実施させて頂けたことは本当に有難かった。

おとな対象ワークショップでは、昨年度は、当たり前の日常が一変したことで、おとな自身が感じた行き場のない不安やイライラを共有した。しかし今年度は、現状をそれぞれが自分なりに受け入れ、「子ども間でトラブル起こったら親はどうアドバイスする?」「みんな感じかたが違うよね…子どもにどうやって理解させる?」と、親としてできることを共有できた。ペアワークの時間はお互いの話を聴きあいながら話が止まらない。制限のある日常で、おとなも対面で話すことを欲しているのだと改めて感じた時間となった。

子ども対象ワークショップでは、「目、みみ、ハートはきくあいず」のやくそくから始まり、「目、耳、心を使って話を聴く」ことを確認する。1校時ではあるが、このやくそくを守りながら、それぞれが力を発揮しワークショップをつくりあげていく。子ども達は2年を越す制限された生活のなかで、現状を受け入れ、決められたことを守り、凄い!と感じる。おとなでも容易なことではないのに…。しかし、この状況が子どもに与える影響は大きい。マスクをしていることで相手の表情が読み取りにくいため、自分の気持ちを表すことが今まで以上にしにくい。知らず知らずのうちに我慢していることが、ストレスとなることも多くなっているだろう…「自分の気持ちは自分のもの。気持ちに〇×はない。」こんな時だからこそ、自分の気持ちを大切にしたい。 (みほこ)



教育関係 (学校園、企業 など)	—子ども対象(クラス単位)— <豊中市> ●西丘小学校(1年生～6年生 全学年 22 クラス) 1年生 3 クラス 「聴く」「たいせつな気持ち」 2年生 4 クラス 「自分も相手も大切にする境界線」 3年生 4 クラス 「コミュニケーション～気持ちを言葉で伝える～」 4年生 4 クラス 「自分で考え、判断して、行動する」 5年生 3 クラス 「協力する力」 6年生 4 クラス 「自分も相手も肯定的に見る」 <大阪市> ●望之門保育園(年長児 1 クラス) 「多様性尊重、成長と変化」 —おとな対象(教職員・PTA・企業)— ●豊中市立西丘小学校PTA地区懇談会 「たたかれた！もうイヤ！…ちょっと待って、ぶつかっただけかも？その気持ち決めつけていいのかな？」～子どものトラブル、親としてできること～
子育て支援関係	—おとな対象(一般)— ●堺市西区子育てサロンおたまじゃくし 1 回目 「大切なココロとカラダ」 2 回目 「心地よい関係作り～自分も相手も大切にする境界線～」 ●みんなの子育てひろばきらり 「アンガーマネジメントを学ぼう～イライラさんと上手につき合う方法」 ●中区うきうきルーム子育て講座 「アンガーマネジメントを学ぼう！」
その他	●中区子育てフォーラム YouTube 撮影
	*新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になったワークショップ ●中区子育てフォーラム 「アンガーマネジメント」 ●柏原市立国分小学校(4年生 3 クラス) 「すてきな聴き方」

2021 年度中区子育てフォーラムは動画配信になりました！！

「イライラ！！みんなが傷つかないために・・・」

～アンガー(怒り) マネジメントを学ぼう～

動画視聴

YouTube(中区動画チャンネル) 無料

*通信費は視聴される方の負担となります



子育て支援課 HP「子育てフォーラム」より配信



中区子育てひろば

昨年12月、2022年度からの堺市子育て支援課の中区子育てひろば「うきうきルーム」のプロポーザル募集が発表され手を挙げた。

2015年から中区子育てひろばが開設され、私たちは6年間、「うきうきルーム」を担ってきた。はじめの3年間、そして次の3年間と、私たちは「子育てひとりじゃないよ」をコンセプトに、ひろばのあり方、親との関わり、そして子どもの育みをエンパワメントの視点で培ってきた。

ここ2年間はコロナ禍における影響で、あらゆる集まりの場が制限され、個人にも規制がかかるようになった。そんな中、人との関わりの希薄さから子育て中の親子の孤立化が課題になった。今こそ、中区ひろばの役割の大きさを感じていた2021年末、次のプロポーザル募集が始まった。私たちは、これまでひろばを担っていたスタッフ全員が集まり、ひろばの必要性を話し合い、今後も中区子育てひろばを、続けていくことに固い決意をした。

どんな子育てひろばをめざすのか？その問いにスタッフの言葉から出たのが「安心」だった。安心は「恐怖・不安」の裏返し。SNSの普及で情報過多になり、子育て中の不安やイライラがコロナ禍でさらに増幅している。利用者の声に耳を傾け、不安を少しでも軽減し、安心して過ごせる居場所を提供したいという思いから新たに「安心」をキーワードにひろば運営を考えた。

★コロナ禍における、人とのつながりの不安やストレスを軽減し、安心を感じることができるひろば。

★気軽に「ひろばに来やす（安）い」「なんでも話しやすい（安）い」「ききたいことをききやす（安）い」子育てひろばの「～しやすい（安）い」を安心につなげ、お互いの信頼関係を築いていけるひろば。

★コロナ禍で人との関わりを持つことが容易でない中、「ここなら安心して来ることができる」人と心のふれあいができるひろば。



これまでも、これからも「ひとりじゃないよ」の思いと、ひろばがいつも“安心”の空間であり続けるようスタッフ一同気持ちも新たに・・・

2022年4月から3年間

堺市中区子育てひろば「うきうきルーム」を運営します。

よろしくお願いいたします。

『アタッチメントによる子どもの状況と関わり』

福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター助手 水木理恵さん

2022 年 1 月 23 日 雨が降る少し肌寒い日でした。

えんばわめんと堺 『DV 児童虐待とジェンダーの影響について考える アタッチメントによる子どもの状況と関わり』の講座に参加してきました。

この日の講座は 大阪にまんえん防止措置が発令されていることもあり、対面での参加とオンラインでの参加のハイブリッド型での開催でした。講師の方はそんな中、福島から来られた福島県立医科大学・臨床心理士の水木 理恵さんで、児童養護施設にお勤めされておられ虐待・トラウマの専門とのことでした。

アタッチメントの講座は以前から興味があったのでどんな内容だろうか…難しくて理解できなかったらどうしよう…と楽しみな反面、ドキドキとしながら始まるのを待っていましたが、講座が始まると 水木さんは明るくサバサバとした話し方でとてもわかりやすくお話しして下さいました。

ACE…（子ども時代の逆境体験）はその人の後の人生にも大きく左右するとのことのお話しや、遺伝と養育の議論についてのお話し、そして、アタッチメントの形成のお話しでは普段子育てひろばでもよく見られる光景を想像しながらお話を聴けました。また不適切な養育や虐待・ネグレクトを経験した子どもの特徴のお話しも適切な関わり方の必要性を改めて考える時間となりました。

今回のお話を聴いて、適切な関わり方の大切さが子どもには本当に必要だと自分の子ども達が小さい頃に聴けたらよかったなと思いました。その時にアタッチメントの関わりに気づけていたらもっと子育てが楽しいものになっていたのかも…と思いながらも、今子どもにできる関わりをしっかりと積み重ねていこう！！そして子育てひろばへ来られる親子さん達にもこのアタッチメントの形成の大切さを知ってもらおう為にスタッフとして何が出来るのかを考えさせられる時間となりました。

濃い内容ばかりで頭が詰まった感じで会場を後にしました。

貴重なお話を本当にありがとうございました。 ひろばスタッフ 太田 佳世



勢いのあるお話にどんどん引きこまれ、今まで出会って過ごしてきた色々な場面、子どもたち、おとなたちの姿が蘇りながら、お話を聴かせていただきました。

虐待、ネグレクトを経験した子どもたちが権力に敏感であったり大人を苛立たせたりする等の対人関係の特徴や、自傷行為や暴力行為などの情緒の調整の困難さも、それらは全てこれまでの経験の適応反応であり、それは彼らの選択ではないというお話が印象的でした。

また、過去のしんどかった経験が心だけでなく、身体への健康への影響にも大きく繋がり、虐待は子どもの発達に人格レベルまで負の影響を与えるが、アタッチメント型は子どものもって生まれた特性ではなく、養育スタイルへの適応の結果であるからこそ、今からでも変わっていく可能性がある！ということに希望がもてる講座でした。

ひろばスタッフ 船越 康子

子どもたちが社会のあり方から学んでいること

『子ども・ジェンダー・力関係』

Facilitator 's LABO 栗本 敦子さん

多数派が当たり前としている社会の何が問題なのか、マイクロアグレッションについて考えた。身近にある、悪意なく発したありふれた言葉や行動のメッセージが人間関係の中で人を傷つける事になっている。

個々の人間関係の問題だけでなく、マイクロアグレッションを起こす背景に社会の構造があること、それが子どもたちにどのような影響を与えているかをグループディスカッションで共有した。「うんざり」するような日常の出来事を挙げ、その背景には先入観や偏見や差別があることも考えた。

そして社会構造をふりかえり、子どもに関わるわたしたちはどうすべきか…意見を出し合った。違和感を感じたら言葉でなくても態度で表す・法律や政治も変えて人権教育を変えていかななくては！・あきらめないなど…。「意識していこう」では解決しない、子どもと一緒に考えていくことが大切である。

マイクロアグレッションの分類

〈栗本さんの資料より抜粋〉

○マイクロアサルト (micro assaults) : 相手を傷つけることを目的になされる暴力的な言葉や非言語行為による攻撃、蔑称で呼ぶなど、差別の意図をもった攻撃的・暴力的な言動。

○マイクロインサルト (侮辱) (microinsult) : 無礼で気遣いのない言動で、個人の出自やアイデンティティの価値を下げる。やりとりや環境に埋め込まれた形をとり、ステレオタイプや無礼さ、無神経さを伝えるコミュニケーション。

○マイクロインバリデーション (microinvalidation) : 排除、否定などの言動を指し、マイノリティの考え、感情、経験している現実を無化する。差異を無視して平等な扱いをしているということ等も該当する。



栗本さんのワークショップ形式の講座はとにかく分かりやすい。言葉や例に挙げる内容が、スッと心に入って来る。

この講座の担当を自分がしたいと申し出たので、栗本さんとの事前の打合わせも行った。その際、講座の内容を相談していく中で、「着地点はどこ？」と問われ、わたしは明確に答えられなかった。

「参加者が自分の出来る事を考えたい」と言うと、「解決策を考える危うさってあるよ」「制度を作って終わり、やった気になって終わりのような対処療法にならないようにしないとね」と答えてくださった。

『解決しようとしなない解決』がわたしのキーワードになった。

打合わせもわたしにはもうすでに学びの時間だった。自分が考えている事とは違った角度からいつも問いを掛けてくださり、わたしの心に突きささる。次の機会が待ち遠しい。(しおざき)



定員いっぱいになりました



堺市が企業・団体・地域の人たちと連携し、SDGs 達成に向けた取組を推進するために設立されたものです。2022 年 4 月現在、530 団体が会員となっています。

えんぱわめんと堺は SDGs について子どもの人権が守られる社会のために「児童虐待」「セクハラパワハラ防止」「体罰」「ジェンダー平等教育」「人権教育」の研修・ワークショップをおこない、持続可能な社会づくりに貢献すると掲げています。

子どもの人権を尊重し、お互いの多様性を認め合い暴力のない社会を願います。だれ一人取り残されない社会をめざします。



CAP 活動報告(2021 年 10 月～2022 年 3 月)

	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校 数	クラス 数	人数	校数	クラス 数	人数	校数	クラス 数	人数		
10 月	22	50	1542	0	0	0	0	0	0	22 (22)	72 (72)
11 月	35	73	2312	0	0	0	0	0	0	35 (35)	108 (108)
12 月	15	44	1384	0	0	0	1	2	71	16 (16)	67 (67)
1 月	4	13	410	1	1	31	1	3	106	6 (6)	27 (27)
2 月	5	13	382	0	0	0	0	0	0	6 (6)	30 (30)
3 月	4	13	434	0	0	0	3	16	530	7 (7)	48 (48)
合計	85	206	6464	1	1	31	5	21	707	92 (92)	352 (352)

SNP プログラム（障がいのある子どもへの CAP プログラム） 2 月 支援学校 1 校 2 ワーク 39 名

第20回 ES総会&イベントご案内



☆日時：2022年5月21日（土）

総会-11:00～12:00 総会イベント-13:30～16:00

☆場所：堺市産業振興センター セミナー室1

☆イベント内容：20周年記念イベント 『これまで・これから』
～「エンパワメントへの道しるべ」ガイドブック紹介～
パネルディスカッション

パネリスト 角田尚子さん（ERIC国際理解教育センター）

パネリスト 栗本敦子さん（Facilitator's LABO（えふらぼ））

ファシリテーター 北野真由美

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

（初年度のみ入会金 3,000円）

賛助会員 1,000円（入会金なし）

更新日は年2回（1月31日・8月31日）です。

◎ 会員有効期間は1年です。

◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

正会員 29名

賛助会員 56名（70口）

寄附金 80,000円

（2021年4月～2022年3月）

2022年4月現在

ESの活動はみなさまからの寄付、
ご支援にささえられております。
今後ともよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人えんばわめんと堺／ES

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

TEL：072-230-5588 FAX:072-230-5589

E-mail：empowerment@lily.ocn.ne.jp <https://www.npo-es.org/>

ホームページやFacebook も見てね



編集後記 人権NPO協働助成事業『エンパワメントへの道しるべ』のガイドブック制作に追われたこの半年。しんどかったけど、メンバーと意見を交わして作り上げていくことは楽しくもあり、自分の力不足を実感する瞬間でもあった。教材を作りながら学べたし、ESの初めての取り組みに携われたことは嬉しい。

ガイドブックが完成したらゆっくりしたい～と思っていたけれど、やらなければいけないことが山盛り状態。忙しいのはありがたいことだと思いつつも、時間の使い方を立て直そうと決意した新年度スタート。3年ぶりに緊急事態宣言のないGWがやってきそう♪久しぶりにどこか遠くに出かけたいな～（しおざき）

